

令和7年度 社会福祉法人ひかり会 認定こども園AOYAGI

自己評価・学校関係者評価報告書

①本園の教育目標

たくましい体、豊かな心、伸びる知能

全人教育（調和ある人格）を理想とする保育運動（ムーブメント）教育を軸として

1. こどもの主体性、自発性を大切に、身体の機能を育てる保育
2. こどもの身体の動きを通して、知覚能力や情緒、社会性を育てる保育
3. 認知能力、創造性の発揮に通ずる人間の基礎づくりの保育
4. こどもが喜び、満足感、達成感を持ち『幸福』を感じる保育

②評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	こどもの主体性、自発性を大切に、身体の機能を育てる保育	3.59	やりたいと興味を示したことは、できる限り最後までチャレンジ出来るようにし、うまくいった時、「やったね」「すごいよ」と一緒に喜び、共感していった。失敗した時には、責めずに「残念だったね」と悲しい気持ちや悔しい気持ちなどを、受け止めていった。
2	こどもの身体の動きを通して、知覚能力や情緒、社会性を育てる保育	3.41	自分の気持ちを担任に伝えるのが苦手で、困っていてもSOSが出せなかったAくんが、跳び箱が跳べたという成功体験から表情も明るくなり、積極的に質問することができるようになり、Aくんから様々なことを伝えてくれるようになりました。成功体験から自信が付き、1つ上の目標に挑戦しようとする姿や、他の先生に「〇〇で来たよ！」報告する姿が見られました。情緒が安定し社会性がそだっていると感じました。
3	認知能力、創造性の発揮に通ずる人間の基礎づくりの保育	3.33	おもちゃの遊び方で、ブロック遊びでもただつなげたり組み立てたりしているだけでなく違う遊び方を提案してみたり、自分で考えた遊びをしているときは見守ったり一緒に遊んでみたりしている。子どもたちが自分の興味や好きなこと、色々な活動を選ぶことができる自由遊びを大切にしました。音楽やダンスも創造性を高める大切な活動として沢山経験を楽しみました。
4	こどもが喜び、満足感、達成感を持ち『幸福』を感じる保育	3.89	日課活動や日々の主活動、子どもの「やりたい」を大切に、保育を行って来ました。跳び箱やマーチング、発表会の劇やエンディングなどで、できたことは大げさに褒め、できなかった際には何に気付ければできるようになるのかを、子ども一人ひとりに伝え繰り返し練習を行っていくことで、「できた」「やった」といった達成感を感じてもらうことを意識しました。

評価（5…十分に成果があった 4…成果があった 3…少し成果があった 2…変わらない 1…成果がなかった）

③総合的な評価結果

評価	理由
B	教育目標に対し中央値を超えることができたが、来年度は4点台を目指すよう、目標を忘れないよう取り組んでいく

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

④今後取組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	愛される園づくり	笑顔での挨拶の徹底、保護者に声をかけられたときはいかなる状況でも足を止めて耳を傾けしっかりと答えるとともに、そのことを担任に共有すること。職員がまずは明るく笑顔をたやさないようにする。
2	信頼される園づくり	保護者からの意見や不安を受け止められる姿勢を大切に、職員間で情報の共有を徹底し、対応にバラツキのないようにする。
3	子どもの満足感・達成感の向上	子ども達が心から活動を楽しめること。保育者は子ども達の出来たことに対し、十分に褒めたり、チャレンジする姿に対して勇気づけの声掛けを行う。目標に向かって進む過程を大切に、そこには楽しむことが必要だと思いました。
4	保護者の満足感の向上	毎日、子どもの園での様子を伝えるようにして、保護者の話にしっかりと耳を傾けて不安が払拭できるように対応していく。一緒に喜んだり、褒めたり、悩んだりしながら子どもの成長を共に感じ、共に成長できるようにしていきたい。

⑤学校関係者評価委員会の評価

- ・こどもの気持ちを尊重してやってくれたおかげで、少し難しい事にも挑戦している様子が保育士との毎日のやりとりで感じた。
- ・こどもと保育士のコミュニケーションが、毎日の関わりでしっかりと取れている事で親以外の大人と信頼関係が築けていると感じることがたくさんあった。
- ・こどもだけでなく、保護者ともしっかりと向き合っていたいたいかげでより良い環境、雰囲気子ども達の成長を見守っていけると思う。